



Hãf a A d a i

令和 5 年 5 月 31 日
グアム日本人学校
学校だより
6 月号
校長 井手瑞樹

教えることと育てること NO.2

新学期の学校の教育活動も、やっと軌道に乗ってきたように感じます。運動会の練習も始まっています。

さて、日本のある新聞に、「親に褒められ、かつ親に厳しく叱られた経験の多い子ほど、将来、困難な状況に直面してもへこたれない」という記事がありました。調査は平成 29 年 10 月、全国の 20～60 歳代の男女 5000 人から回答を得た結果だということです。「よく褒めて、しっかりと叱る」、正に子育ての基本だと思います。ただ、それに先立つものは、子どもとの触れ合い、コミュニケーション、観察、情報収集等であり、正しく子どもを知って適切な対応をすることが子育てにとって必要不可欠なことです。保護者の皆様と我々教職員は、それぞれのお子さまの情報をしっかりと共有しながら、同じ方向を向いて子どもを育てていきたいものだと思っています。



また、数年前、日本の国会で児童虐待防止法と児童福祉法などの改正案が成立しました。それによりまずと、親が「(18 歳未満の) 児童のしつけに際して体罰を加えてはならない」とされています。昨今、しつけと称した親から子への虐待事件が多く報道されるようになり、指導する側、される側の状況や意識の変化によって、なかなか思うようにいかない子育ての現状を伺い知ることができます。時代の変化といえどもそれまでかもしれませんが、ついに法律で規制しなければならなくなったのかと心が痛みます。



しかし次のような話を聞くと、親の子に対する教育のあり方を味わい深く考え直すことができるように思えます。「ある小 1 の男の子が、毎月お小遣いを 100 円もらっていた。しかし、150 円のポケモンカードに目がない。到底 100 円では足りない。そこで、お父さんに、『どうやったらお金を稼ぐことができるか?』と聞いた。すると父親は、『ビジネスのヒントを伝授しよう。受講料は 100 円』と伝えると、その男の子はカフェを営むことにし、お年玉や借金でコーヒー豆 200 ㌦を買う。もうけを試算し、1 杯の値段を決め…と話は続く。」誰もが同じようには行きませんが、なるほどと顔が緩みます。やはり、子育てには工夫が必要です。単に怒ったり、命令したりするのではなく、子どもに考えさせることが大切だと思います。



最後に一言。6 月から体験入学が始まります。ぜひ、日本の教育に興味関心があり、それに沿った進路も考えていると言われる方が大いに増えてほしいと思っていますし、そのような方に、積極的に参加していただきたいと考えております。ただし、現在日本人学校全日制に通っておられる子どもさんが、我々の指導の中心にあることは当然のことです。しかし体験入学者であっても、知・徳・体を一体で育む日本型教育のすばらしさを十分体験することが可能であると思っています。まずは、日本人学校全日制の存在を知っていただくこと、そしてその教育内容を知っていただくことが重要ですので、保護者の皆様方、機会があれば、どうぞ日本人学校全日制のことを口伝えに広報いただければ幸いです。